

第4回 都市公園の柔軟な管理運営のあり方に関する検討会
議事要旨(案)

日時	2022年5月24日(火) 10:00~12:00			
場所	国土交通省都市局議室・Zoom			
出席者 (※はオンライン参加)	委員長	東京農業大学 名誉教授	蓑茂 寿太郎	
	委員	東京都市大学 都市生活学部 教授	坂井 文	
		NPO 法人 Green Connection TOKYO 代表理事	佐藤 留美	
		東京大学大学院 新領域創成科学研究科 教授	出口 敦(※)	
		公益財団法人都市緑化機構 専務理事	椰野 良明	
		東京都市大学 環境情報学部 特別教授	涌井 史郎	
		東京都建設局公園緑地部 公園計画担当部長	根来 千秋	
		豊田市都市整備部 部長	阿久津 正典(※)	
		神戸市建設局 公園担当局長	広脇 淳(※)	
	事務局	国土交通省 公園緑地・景観課	公園緑地・景観課長	五十嵐 康之
			国際緑地環境対策官	辻野 恒一
			公園利用推進官	曾根 直幸
			利用企画係長	長尾 潤
		株式会社創建		川合 史朗
			中尾 理恵子	
			柳澤 茉莉	
資料	委員名簿 資料1 検討スケジュール(案) 資料2 都市公園の柔軟な管理運営のあり方検討会とりまとめの方向性(たたき台)について 資料3 資料2に係る参考事例 参考資料1 令和3年度検討会における意見のまとめ 参考資料2 都市公園の柔軟な管理運営のあり方検討会とりまとめの方向性(たたき台)【概要】 参考資料3 第3回検討会議事要旨			

■議事内容

1. 開会

- ・ 公園緑地・景観課長 五十嵐 康之より挨拶
- ・ 事務局より挨拶、配布資料の確認
- ・ 資料1について、事務局より説明

2. 議 事

(1) とりまとめの方向性（たたき台）

- ・ 資料2、3について、事務局より説明
- ・ 事務局にて検討の全体のフレームと個別の問題を整理されたので、順番にご意見をいただきたい。（蓑茂委員長）
- ・ 都市公園を一層柔軟に使いこなすという部分で、都市公園というハードを住民が使いこなす視点と、企業などいろいろなステークホルダーが出てきているということを表示できるとよい。
指定管理者に行為許可の権限をどこまで与えるべきかという議論の目安となる方向性、トレードオフの関係になりがちな公園を使いたいという声と公益的な利用のための制限の調整に対する指針が出るとありがたい。（広協委員）
- ・ 公園という公共財をどのように使いこなし管理していくかということと、社会の要請に対応するため、調達した資金を、新陳代謝のための再投資にできる仕組みをガイドラインとして示してもらえるとありがたい。中間支援組織は、理屈としてはそのとおりとを感じるが、地方都市で果たして中間支援組織が育つか疑問。（阿久津委員）
- ・ 安全・安心を Well-being に結び付けるのは無理があるのではないか。植栽管理の問題とカーボンニュートラルに向けた緑の整備・保全・育成、デジタル化と防犯カメラ、AI などがある中で、ここだけに収めることに違和感がある。
広範囲の方が利用する広域公園と、地域の方々が中心の街区公園では、ルール、担い手、担い手に対するインセンティブ、資金の還元などが違ってくる。そのあたりをうまく整理できるとよい。（根来委員）
- ・ 全体として、公園というボーダーの内側の議論に閉じこもっていないか。グリーンインフラの議論において、グリーンインフラは入口であり、出口はグリーンコミュニティの形成ということを訴えてきた。地域コミュニティの形成に公園が果たす役割は極めて大きい。公園の利用だけでなく、公園同士のネットワークをどう考えていくかも非常に重要。民間ディベロッパーが Park-PFI や指定管理に非常に強い関心を持っているのは、公園を核とした地域づくりにどれだけ関与し、新しいビジネスチャンスを生み出していくかという点。パークマネジメントへの興味は、エリアマネジメントへの興味に通じ

る。これらは大都市、集積した市街地での視点。地方では、観光との関係で公園を利活用したいというニーズが非常に強い。そういう区分をしながら、公園の外側との連携をどう考えていくかという視点があってもよい。(涌井委員)

- ・ 安全・安心を Well-being に含めているが、別立てにした方がよい。Well-being への貢献は、安全・安心よりは SDG s への対応ではないかと思う。

先進的な事例は、なぜそれが実現できたのかという背景(組織の充実、民間の知恵袋の存在など)を深堀する必要がある。また、指定管理者制度の公募の仕方も、研究の価値がある。権限の付与、イベント収入の充当、公募方法などを分析することが重要。

公園管理者、公園利用者にとってのデジタル化の意味は書かれているが、民間事業者(Park-PFI、指定管理者)にとっても非常に意味がある。利用者の実態がオープンデータ化されると、いろいろな民間事業者が取組やすくなる点にも言及したほうがよい。

「つくり育てるみんなの公園」のキャッチコピーはそのとおりだが、もう一歩進んでこれを具体化する明確なキャッチコピー、例えば国としてこれから公園を見直す、再生する、あるいは開放する、それらを全国的に取り組んでいくというメッセージを出した方がいい。

公園の評価の話が埋没しつつある。公園の管理を良くするという意味では、評価制度は非常に大事。公園の管理水準の見える化は引き続き検討してもらいたい。(榎野委員)

- ・ 何のために都市公園の柔軟な管理を進めるのかというそもそものところがもう少し明確になるとよい。公園は、SDG s のウェディングケーキモデルの3層(自然環境、社会環境、経済環境)を実現できる場所であり、大きな拠点としてSDG s を発揮していく、持続可能なまちづくりの貢献していける拠点である。緑が都市の重要なグリーンインフラであり、自然環境、健全な生態系をいかに保全、維持するかというところをベースにもってきてほしい。そこに資源循環の考え方も入ってくる。その上で、緑をベースとしたコミュニティが社会環境の層に入ってくる。それが Well-being であり、健康づくり、学校教育、福祉など様々な分野に波及して医療費増大を防ぐといった流れができる。「あんこ」となるコミュニティがない中で、公園に経済的な施設、収益施設を置くだけでは、持続可能なまちづくりは難しい。これら3層をつなぐのが、パートナーシップであり、それを実現するのが公園管理者の役割である。そこに中間支援組織が入り、様々なステークホルダーとの関係をオーガナイズすることによって、持続可能なまちづくりを公園から実現する流れができる。全体をDX化していくことで、さらに効率化が図られる。これが、柔軟な管理運営がめざす方向性、目標ではないか。

公園の柔軟化、利活用、活性化の相談の中に、企業が公園を活用、リノベーションしてコミュニティに資することで資産価値を上げたいという話があるが、行政側は無理だと考え、実現できていない状況が起きている。また、農地に区画整理事業が入りできた提供公園を農的に活用しようということがあっても、直営の公園では自由なことがで

きない、芝生が多いと管理が大変で難しいという現実がある。自治体、指定管理者の意識醸成も必要ではないか。西東京市では、指定管理者の公募条件において中間支援組織の役割を求めている。公募のあり方を見直していくことが必要ではないか。DX化の前に、公園の情報、台帳が揃っていない。設置時の設計図面はあっても、その後の更新がなされていないこともある。そこもデジタル化すべき。(佐藤委員)

- ・ カーボンニュートラルという言葉が出ているが、都市環境に貢献する都市基盤としての公園を再認識することが必要。都市の水環境の調整の視点から、グリーンインフラもこの部分に入れた方がよい。また、Well-being の部分は、人に対して何ができるかという整理もある。いくつかのオプションを整理しながら、この部分を再整理してはどうか。インセンティブの拡大という言葉がずっと引っかかっている。都市における公園の役割(自然環境、人に対する環境)に加え、都市の基盤を再編する際の貢献もある。インセンティブについては、とりまとめを文章化する際に、団地の再編などの都市基盤再編の際に、お互いにどのように貢献できるかという公共貢献についても言及できるとよい。

公園の種別に加え、時間軸の視点も必要。都市の中で中長期的に公園の使い方をどうするのかというビジョンが必要。例えば緑の基本計画の中で、あるエリアの公園についてどのような役割があり、5年、10年でどういう利用をしていくかということを書き込むことが必要ではないか。公園の評価の仕方と、エビデンスベースのプランニングは表裏一体であり、評価の延長として指定管理者制度をどうしたらよいかといったあたりも書き込めるとよい。(坂井委員)

- ・ 本検討会の取りまとめは、首長に読んでもらえるものにしなければ前に進まない。その意味でWell-being といった言葉は非常に重要。(蓑茂委員長)

- ・ つくり育てるみんなの公園はそのとおりだが、より強いメッセージを出した方が首長に話をしやすい。

また、「管理運営を進化させる」の中にWell-beingが入っていることに違和感がある。公園を活用するプレイヤーは福祉、健康、教育などいろいろな分野がある。いろいろな意味で公園の価値を評価する仕組みがあるとよい。その評価の視点も独立してもらったほうがわかりやすい。(阿久津委員)

- ・ デジタル化、カーボンニュートラル、Well-being は社会の新しい流れを受けたいということ。その括りが、従来の管理運営という枠から見ると違和感があるという理解のもと、表現を見直してはどうか。グリーンフラッグアワードのようなものは、きっかけが重要である。緑化フェアのイベントの一つという形で始めれば、続くのではないか。(蓑茂委員長)

- ・ 素晴らしい都市には素晴らしい公園がある、素晴らしい公園をつくれれば素晴らしい都

市になるという趣旨の国際会議がある。そのように緑をまちづくりの主演とするくらいのキャッチーなコピーがほしい。公園がまちづくりに直結するという視点を示し、分野をまたいた広がりのある方向性を打ち出してほしい。

大きな公園、中くらいの公園、小さな公園といった規模に応じた細やかな柔軟化、施策を考えていかなければならない。Park-PFI や指定管理が入ることに不安を感じる住民もいる。住民との合意形成、使い方に関する議論をするための時間といったことも含めて、柔軟化に向けたストーリーを考えていかなければならない。(佐藤委員)

- ・ 検討項目と論点の組み立ての順番が違うのではないかと。一番重視すべきこととして、街の活力を支える発展的な公園利用のあり方が先に来て、次に、そのために誰もが快適に過ごせる公園管理はどうしたらよいか、その中で民の活力をどう利用するのかという組み立て委が大事ではないか。大きなフレームから、普遍的な部分に戻していくアプローチの方が、政策の議論においては現実的ではないか。公民連携を進める中で施設の劣化に対し民間が再投資できるよう、適切に評価して30年、40年というスパンで管理を継続できるようにしなければ、民間は十分な投資ができない。目先の投資回収に意識が向き、発展的に考えることができない。それに対する方策を明確にすることも必要。民間が市民のために公的な役割を担い、なおかつESG投資につながるような方向性の受け皿としての役割を公園が担うということは、十分に説得力があるのではないかと。世界では、Nature Based Solutionのアプローチが主流になりつつある。公園は、社会の機能の基本を担うというくらいの認識を持って、都市を活性化し、良質なコミュニティを形成し、Well-beingなライフスタイルを実現するコアになるという意識の下で、公園を魅力あるものにするにはどうしたらいいかを議論すべき。片方では地域住民のコミュニティが運営する方法がある。場合によっては民間活力を導入するかもしれない。しかし再投資についてもきちんと考えているというような、持続性のある検討の仕方があってもよいのではないかと。(涌井委員)

- ・ 時間の軸を持ちながら全体を押さえたほうがよい。(養茂委員長)

- ・ 「柔軟な管理運営のあり方」という名称から、管理、運営、利用というロジックの順序になってしまっているのではないかと。むしろ利用ありき、さらに管理運営よりも、経営の概念を公園に導入するぐらいのことを考えてもよいのではないかと。新しい資本主義の考え方をモデルとなる公園に導入する、あるいは面的に公園を経営するという考え方がある程度念頭に置いてロジックを組み立てたほうがよい。

公園には、Well-being、健康を担う場、コミュニティを育てる場など、貨幣価値換算できない価値が多分にある。あるいは企業や住民が地域に貢献していく場であるという考え方も、新しい資本主義が支える公共空間の中に入れてほしい。そういった上位の概念を踏まえた上で論点が整理されるとよい。(出口委員)

- ・ 首長たちは、コミュニティをつくるのに、花や緑がブレークスルーになることに気付き始めている。その底流に最近はやりの Well-being があるのではないか。
小公園の評価にこだわりたい。公園の質を高めたいという問題意識のベースにあるのは、小さな公園、使われていない公園である。それを改善する手法として、評価基準をつくるのは一つの方法である。豊島区の実践が参考になる。いかに公園の質を高めるか、それに併せて地域の価値をいかに上げていくかということ念頭に置いてまとめてほしい。(柳野委員)
- ・ 公共という言葉は、公が共を吸収してできた。そのために共が縮退した。社会資本や自然資本の中で共を再構築することは、公園しかできない。公から共のグラデーションの中に公園があるというイメージを共有することが重要。(涌井委員)
- ・ 公園種別ごとの細かな整理というより、基礎自治体が必ず管理する街区・地区・近隣公園規模と、県レベルで必ず管理している総合・広域公園といった規模感で、「共」による関わり方が異なり、基本的なコミュニティの大きさがざっくりと捉えられる。企業が入りやすいところとそうでないところ、入りにくい場合に中間支援組織を活用しようといった形で整理できるのではないか。(坂井委員)
- ・ 単に Park-PFI や指定管理者制度を導入するのではなく、まちづくりに活用する、そういった考え方の転換を自治体の方々にも理解してもらえるとよい。地方での中間支援組織のあり方について相談を受けることがあるが、既存の団体・組織に役割を新たにインストールする方法もある。一口に中間支援組織といってもいろいろなレベル、内容がある。地域に合った形で展開することをインプットしていく流れをつくりたい。(佐藤委員)
- ・ 150年の歴史の中で、とくに都市公園等整備五箇年計画以降、たくさんの公園をつくってきたが、それだけでは公園の価値が市民に伝わらないのが現実だと思う。そこで、どう利用するか、使うか、どう快適なものにするか、成熟社会の中で健康や Well-being にどうつなげていくかということ、全体のフレームの中で見えるようにする必要がある。また、この事例があったからこういう方向性が出せたという部分をよく押さえていただきたい。とりまとめをいろいろな立場の人が見るということ意識して、多面的に見せる方法を工夫してほしい。場合によっては、こういうことで公園の価値向上を求めている人は、ここを読んでほしいといったことを明確にして組み立てた方がよい気がする。(蓑茂委員長)

5. 閉会

以 上